

令和3年度 地域活性化活動事業 活動概要

山口市立徳地中学校

校長 青木 典生

1 はじめに

徳地中人形浄瑠璃部は、徳地地区の中学校5校が統合する前の堀中学校時代の15、6年前までは、文化祭等での上演を行っていたようであるが、統合後は中学校としての浄瑠璃への取組は途絶えていた。一方、校区内の中央小学校では、長年にわたって徳地人形浄瑠璃を教育活動に取り入れられてきた。この経験を中学校でも継続できないかと、5年前に小学校で指導をされていた徳地人形浄瑠璃保存会の方を中心に、初めは有志で、その後、毎週月、水曜日に地域の指導者や設備等を生かした本校独自のコミュニティ・クラブの1つとして人形浄瑠璃部の活動が始まった。

2 活動の概要

中央小では、6年生全員が「語り」や「人形遣い」、「三味線」などの役に分かれて一つの浄瑠璃を作り上げているが、中学校は活動する人数が少ないため、「三味線」を引きながら「語り」を一人二役で行う「弾き語り」を中心とした形式で行っている。

一昨年までは、地域のお祭りや伝統芸能の行事に出させてもらったり、文化祭で上演したりしていたが、昨年度からは新型コロナウイルスの影響により、地域のイベントは多くが中止となってしまった。

また今年度は、これまで「弾き語り」の中心となって活動してきた生徒の多くが卒業したため、「弾き語り」のほか、最も取り組みやすく基本的な役割となる「語り」や「人形遣い」も練習に取り入れ、活動を行ってきた。



三味線の「弾き語り」の練習

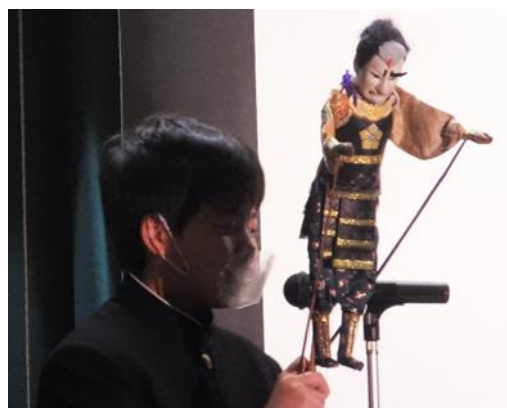


基本となる「語り」の練習

徳地中で行っている演目『絵本太功記～尼崎の段～』では、主人公「武智光秀とその母の「さつき」の2体の人形が遣われる。そこで、徳地地区にある手作りの布製人形を使って活動されている人形劇サークルの方をお願いをし、「武智光秀」の人形を作っていただいた。今まで使っていた木製の人形とは趣が異なるため、今後は「さつき」の人形も作り、徳地中オリジナルの「人形遣い」や「シナリオ」を考えていく予定である。

今年度は3年生が2人、2年生が1人での活動となった。部員数が減ったことやコロナ禍もあり、これまでのように地域のイベントや本校の文化祭などで実際に人形浄瑠璃を演じることはできなかった。

主として、「語り」「三味線」「人形遣い」などの基本練習を、徳地人形浄瑠璃保存会や中央小の公演動画や三味線演奏のレッスン動画を視聴しながら行った。



従来の木製人形の「人形遣い」



人形劇サークルの布製人形

3 おわりに

本校の人形浄瑠璃部は地域のコミュニティ・クラブの一つとして活動しており、加入している生徒は月・水曜日以外は他の部に参加している。来年度以降は、生徒の負担感を減らし、小学校で行ってきた人形浄瑠璃をより多くの生徒が続けられるよう、月に1・2回程度でも浄瑠璃部に参加できるようにしたり、本校1年生が総合的な学習の時間に行っている「ふるさと学習」のカリキュラムに人形浄瑠璃を取り入れたりすることを考えている。

生徒には、徳地地区の小・中学校で学んだ人形時浄瑠璃を、将来、大人になってふるさと徳地に住んだり、戻ってきたりしたときに思い出し、地区の住民として徳地人形浄瑠璃を支えてもらえればと期待している。